

# CI2

ADVANCED INTEGRATION USB STUDIO

# GUIDE BOOK

ガイドブック



シー・アイツ

## CI2を用いて 音楽制作を始めてみよう

CI2 使い方ガイド ————— P5-P22

SPECIAL INTERVIEW ————— P23-P25

商品紹介、仕様 ————— P26-P30

 **steinberg**

# CI2

## ADVANCED INTEGRATION USB STUDIO

シーアイ ツー

コンピューターのUSB 端子につなぐだけの簡単オーディオインターフェースに Cubase コントロール機能を搭載。付属の Cubase AI 5 ですぐに録音が始められるコンパクトなシステムソリューションパッケージ。



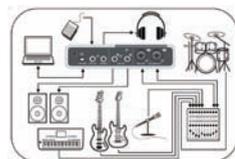
接続例



ホーム レコーディング



モバイルステレオ レコーディング



バンドライブレコーディング

### フレキシブルステレオインプット

XLR/フォーンの両プラグに対応するコンボジャックを備えた2系統の入力端子と高品位なマイクプリアンプを搭載しています。+48V ファンタム電源を装備しているため、ダイナミックマイク、コンデンサーマイクを問わず、ほとんどのマイクを使ってレコーディングを行うことができます。さらに入力端子1にはハイインピーダンス切り替えスイッチを備えているので、エレキギターやベースをダイレクトに接続できます。また、マイクスタンドアダプター「BMS-10A」(別売)を使うとマイクスタンドに取り付けることができ、楽器を演奏しながらでも操作しやすい位置、高さ、角度にセットできます。

## CUBASE AI5



### CUBASE AI 5 をバンドル

Cubase AIの最新バージョン"Cubase AI 5"をバンドルしました。世界でも高いシェアを誇る上位モデル Cubase 5 と同じオーディオエンジンを採用しています。初めてでも容易に作業準備が行えるプロジェクトアシスタント機能、AmpSimulatorを含む3種類のプラグインを追加搭載しているので、購入したその日からすぐに音楽制作が可能です。



### 簡単セットアップ "AI Functions"&"AI READY"

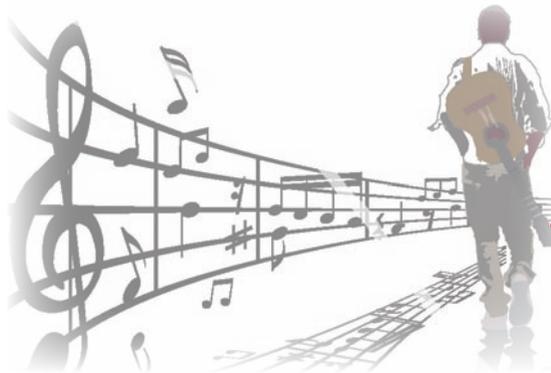
Cubase シリーズのバージョン 5.1 以上がインストールされている環境であれば、CI2 をコンピューターに USB 接続するだけで "AI Functions" が機能し、自動的に接続設定が行われます。CI2 フロントパネル右上の "AI READY" LED が点灯し、準備が整ったことを知らせます。

### AI ノブによる快適なコントロール

AI ノブは "ポイントアンドコントロール" を実現する高精度コントローラーです。視線を正面モニターから離さずに、右手でマウス、左手で AI ノブを操作する新しいワークスタイルを提案します。マウスポインターを Cubase 上のパラメーターに合わせれば、自動的に AI ノブでそのパラメーターを正確にコントロール。LOCK ボタンでコントロールするパラメーターを固定することもできます。CI2 の AI ノブはプッシュ機構が採用され、ノブを押すことでプリセットの選択を決定するなどさらに多くのコントロールが可能になりました。

Cubase AI 5 に新搭載の VST3 エフェクト「AmpSimulator」





## モバイル USB バスパワー

外部電源不要の USB バスパワー方式。専用の電源アダプターは不要。ノートパソコンと CI2 を接続し、マイクやギターを CI2 につなぐだけで、コンパクトなレコーディングシステムが完成します。

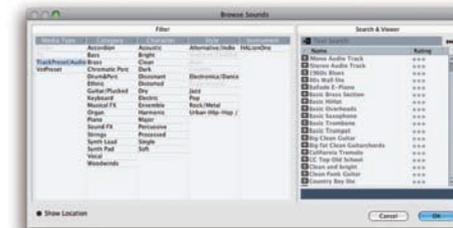


## プロジェクトアシスタント

プロジェクトアシスタントは、レコーディング、スコア作成、プロダクション、マスタリングなど、様々な目的とスタイルに合わせてあらかじめ用意された豊富なテンプレートを、プロジェクト作成時に表示してくれます。これらのテンプレートには必要に応じて、トラック数、エフェクト、ダイナミクスなどがすでに設定されています。もちろんユーザーテンプレートの追加も可能です。また CI2 の AI ノブを回したり、押ししたりすることで、テンプレートの選択が可能です。このプロジェクトアシスタントによって新規プロジェクト作成がスピーディに行えます。

## ブラウズ機能

CI2 の AI ノブにはプッシュ機構が追加され、さらにアクションパッドとの組み合わせで、マウスを触ることなく Cubase のブラウズ機能によるサウンドなどの選択が可能になりました。多数のプロジェクトテンプレートの選択はもちろん、様々なプリセットを呼び出すときも試聴しながら希望するものが選択できます。プロジェクトの作業全体を通してユーザーをアシストします。



## インタラクティブレコーディング

フロントパネルの右下の「アクションパッド」を押すことで、インタラクティブ録音機能がスタンバイ。パッドを押すたびに再生、録音、停止など最大 6 つのトランスポート操作を順に実行することが出来ます。動作の組み合わせをテンプレートから選択することも、オリジナルの組み合わせをテンプレートとして保存して使うことも可能です。

フットスイッチ「FC5」(別売)を利用すれば、インタラクティブレコーディングの操作を足で行えるため、楽器から手を離さずに、「ハンズフリー」で Cubase AI 5 の操作が行えます。

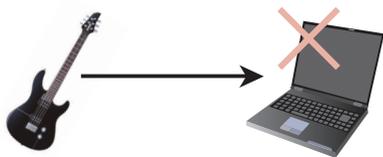


## ●コンピューターにギターの音を録音する!

“ギターの音をコンピューターで録音できるらしい” “作曲もできるらしい” “CDも作れるらしい” … インターネットや雑誌で知ってはいるけれど、いざやってみようとするとながら何が必要で何をを用意すればいいかわからないというギタリストの方。コンピューターに装備されているマイクの端子にギターを無理矢理接続して録音してみたものの、ノイズだらけでギターらしくない音で録音され困っているギタリストの方。簡単に良い音で録音でき、曲作りそしてCD作成の準備の仕方を解説します!

## ●コンピューターというものは

コンピューターはそのままでは良い音で録音するにはできていないのです。コンピューターはビジネス、そしてインターネットの閲覧用の「機械」なのです。そもそも音楽を作るためのものではないので、買ったままの状態では理想的な音で録音や音楽制作を行うことができません。



理由

- ×ギター用の端子がない
- ×端子を変換して接続しても良い音で録音できない

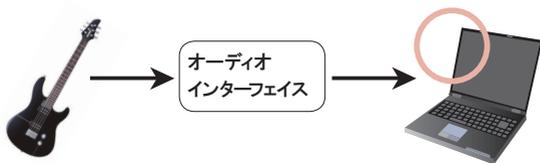
## ●録音したり作曲するために最低限必要なもの

- ・オーディオインターフェース
- ・音楽制作ソフト

の2点です。他にもあると便利なものはありますが、最初はこの2点があれば十分です。

## ●「オーディオインターフェースって???'」

「“音楽制作ソフト”はなんとなくわかるけれど“オーディオインターフェース”ってなんのために必要なの?」と疑問が湧きますね。コンピューターは音を録音/再生する場合、ごく簡素なシステムしか装備されていません。そこで、優れた音で録音/再生するためには音楽制作専用の機器が必要になります。



コンピューターに画像を取り込む時に「スキャナー」という装置を使いますが、同じように音声を取り込む時には専用の装置が必要になります。

## ●ギタリスト向けのオーディオインターフェースがあればいい!

オーディオインターフェースは各メーカーから様々なタイプのものが販売されています。しかし

- ・マウスではなくギターアンプやコンパクトエフェクターをいじる感覚で操作したい
- ・マウスではなく録音や再生の操作をしたい

といったギタリストの要望に応えるオーディオインターフェースがここにあります。

このCI2は、オーディオインターフェースとしてギターを直接接続できるのももちろんのこと、音楽制作ソフトの操作をマウスではなく本体のツマミやスイッチで行える、ギタリスト向けのオーディオインターフェースです。



たとえば

- 音楽制作ソフトに付属しているイコライザーで音作りを行う場合

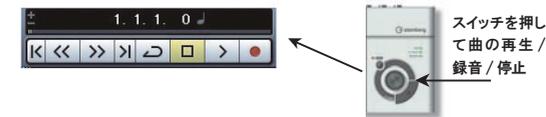
イコライザー画面でロー（低域）を強調したいというような時に、CI2のツマミを右へ回すだけ!



ノブを回して音質を調整

- 音楽制作ソフトで録音する場合

CI2のスイッチを押すだけ!



スイッチを押して曲の再生/録音/停止

マウスをカチカチとクリックしたりドラッグするという音楽的ではない作業から解放され、しかも良い音で録音できるのです!

しかもコンピューターとの接続はUSBケーブル1本でOK。CI2の電源はコンピューターから供給されるので電源は不要です。

## ●音楽制作ソフトが付いている！

オーディオインターフェース CI2 には、「Cubase AI 5 (キューベースエーアイファイブ)」という音楽制作ソフトが付属しているので、CI2 を購入すればその日から音楽制作が行えます。

この Cubase AI 5 は、世界中のミュージシャンやエンジニアが音楽制作に使用している「Cubase 5 シリーズ」というソフトの末っ子にあたるソフトです。

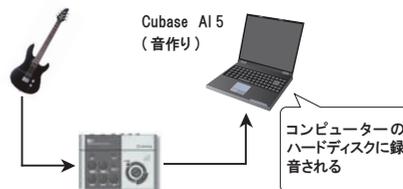


シリーズの末っ子とは言え、エレキギターをギターアンプを通さずに CI2 に接続して弾いてもギターらしい音になる「ギターアンプシミュレーター」や、ギターの音作りに欠かせない「コンプレッサー」「イコライザー」「ディレイ」「リバーブ」、さらに伴奏作りに欠かせないベースやドラムの音を内蔵したソフトシンセサイザー (コンピューター内の仮想的なシンセサイザー)「HALion One (ハリオンワン)」も装備されており、Cubase AI 5 だけで、音作りから録音、伴奏作成が行えます。

しかもこれらの操作は CI2 のノブやスイッチで直感的に行えます。

### HINT ! 録音した音はどこに保存される？

ギターから出た音は CI2 を通り、Cubase で音作りをした後、オーディオデータとしてコンピューターのハードディスクに保存されます。



コンピューターと CI2 は CI2 付属の USB ケーブルで接続します。

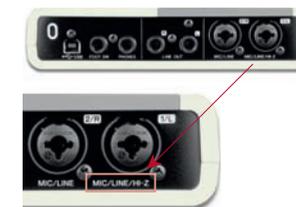
- CI2 には2つのインプット (入力) 端子がありますが、ギターと CI2 は、ギター用のケーブルを使って CI2 の「1/L (MIC/LINE/ HI-Z) 端子に接続します。



- このインプット端子には、ギターだけではなくマイク用の XLR 端子も接続できます。インプットは合計2つ用意されていますがマイクは1L、2R どちらに接続しても OK です。

### HINT ! HI-Zって何？

1L 端子に表記してある「MIC」はマイク、「LINE」はライン楽器 / 機器、つまりシンセサイザーや CD デッキなどの意味ですが、もう1つの「HI-Z」とは何でしょうか？これは「ハイインピーダンス」の略称で、エレキギターやエレキベースなどの楽器の出力を表しています。よってエレキギターを録音する場合には必ず1/L の端子に接続しましょう。



### ☆接続例



コンピューターに録音するための準備も CI2 と Cubase AI 5 のコンビなら簡単！ 順を追って確認しましょう。

### ●ソフトウェアのインストール

CI2 には「Cubase AI 5」と「TOOLS for CI2」の2枚のディスクが付属しています。どちらも音楽制作に必要なソフトウェアですので、コンピューターにインストールしましょう。

### ●Cubase AI 5 の起動

Cubase AI 5 のショートカットアイコンをダブルクリックします。



※最初に起動した時にユーザー登録を促すメッセージが開きます。ユーザー登録をしなくても30日間使用できます。「後で通知」をクリックすればそのまま使用することができますが、期限を過ぎて使用するには、ユーザー登録を行う必要があります。ユーザー登録はMySteinbergから無料で行えます。



### ●何を録音するか教えてくれる「プロジェクトアシスタント」

Cubase AI 5 が起動します。左上にあるメニューの「ファイル」→「新規プロジェクト(新しく曲を作る)」をクリックすると「プロジェクトアシスタント」という画面が開きます。これは Cubase AI 5 が「これから何をしますか?」と聞いてくれているのです。



上段には「最近使用したプロジェクト」「レコーディング」「スコア作成」などの目的が表示されています。ここではギターをレコーディングするので「レコーディング」をクリックします。

その下には「どういう楽器を録音するか」という例が表示されています。「Acoustic Guitar + Vocal」「Clean E-Guitar + Vocal」などギターの種類とボーカルの組み合わせが用意されていますが、ここでは Cubase AI 5 のアンプシミュレーターサウンドを試すために「Distortion Guitar + Vocal」を選びましょう。続いて「作成」をクリックします。

すると「Cubase AI 5 プロジェクト-名称未設定1」という画面が開き、「Distortion Guitar」と「Vocal」というトラックが作成されます。そしてアンプシミュレーターも表示されます。



### HINT! 「プロジェクト?トラック?」

Cubase シリーズでは曲の単位を「プロジェクト」と呼んでいます。また「トラック」は演奏を録音する単位のことです。ギターの演奏は曲の進行に合わせてこのトラックにオーディオデータとして録音されていきます。

すでにギターアンプの代わりにアンプシミュレーターが起動しています。さっそくギターを接続してどのような音がするのか試してみましょう。

## ● 接続とレベル調整

- INPUT 1 の GAIN ツマミを左一杯に回した状態でギターを 1/L 端子に接続します。



- HI-Z ボタンを押し込んだ状態にします。



- MONO ボタンを押し込んだ状態にします。



今回はギターがモノラル接続なので MONO ボタンを押し込みますが、ステレオ接続する楽器 / 機器の場合には MONO ボタンを押し込んでいない状態にします。

- Cubase AI 5 の Distortion Guitar のトラックにある「モニタリング」ボタンをクリックして点灯した状態にします。



- MIX ツマミを右一杯 (DAW 側) に回します。



- ギターを弾きながら INPUT 1 の GAIN ツマミを徐々に右に回していきます。強く弾いた時に PEAK ランプが点灯するくらいにツマミを調整しましょう。



スピーカーあるいはヘッドホンからはギターの音、しかもアンプでドライブさせたディストーションサウンドが聞こえます。適度な音量になるように調整します。スピーカーの音量は MASTER、ヘッドホンの音量は PHONES のつまみで調整します。



## ● AI KNOB を使ったアンプシミュレーターでの音作り

現在アンプシミュレーターは「Lead」というタイプのアンプが読み込まれています。アンプシミュレーターには他のアンプで作ったプリセットが用意されています。ここではプリセットを選択し、さらにパラメーターを操作して音作りを行ってみましょう。この操作は CI2 の AI KNOB（エーアイノブ）を使うと本物のギターアンプの感覚で直感的に行えます。

- AI KNOB を押します。

プリセット ブラウザー（プリセットを選択する画面）が開きます。

AI KNOB を  
押す



- AI KNOB を回すと、選択されているプリセット名が移動していきます。ギターを弾きながら好みのプリセットを探しましょう。ここでは「Vintage Rock」を選択し、AI KNOB を押します。

AI KNOB を回し  
プリセットを選び、  
決定したら押す



- Vintage Rock のプリセットが読み込まれ、アンプのタイプが「Bass Woman」に変わりました。同時にキャビネット（アンプのスピーカー）もプリセットに合わせて変わっています。



- アンプのパラメーターを AI KNOB で調整するマウスをパラメーターのつまみに合わせ、AI KNOB を回すと、パラメーターのつまみが回ります。Drive、Bass、Middle、Treble などを調整して好みのアンプセッティングにしてみましょう。

AI KNOB を回す



アンプシミュレーターで音作りができれば、そのまま録音してみましょう。

## ● リズムのガイドとしてメトロノームを鳴らす

フリーのリズムでギターを録音すると、後でドラムパートなどを入力する際にテンポが合わなくなってしまいます。ここでは Cubase AI 5 に搭載されているメトロノームを使ってガイドとして鳴らします。

- トランスポートパネル（録音や再生を行うパネル）にある「CLICK」をクリックして「ON」にします。



- TEMPO と表示された下の数字がテンポです。現在「120」になっています。ダブルクリックすると数字が反転するので、演奏できるテンポに設定します。ここではテンキーで「100」とタイプし「Enter」キーを押して決定します。



- 録音を開始してから実際に録音に入るまでのカウント（プリカウント）をクリックしてオンにします。なお初期設定では、2小節鳴ってから録音が始まります。



- Distortion Guitar のトラックにある「録音可能ボタン」が点灯しているのを確認します。点灯していない場合はクリックして点灯させます。これで録音準備ができました。



## ● Action Pad で録音を開始 / 停止する

トランスポートパネルでも録音や停止ができますが、CI2のAction Pad（アクションパッド）を押すことでマウスに触らずに快適に開始 / 停止が行えます。

### ● Action Pad を押します。

「インタラクティブ レコーディング」の画面が開きます。現在「録音」の下にある三角マークが選択されており、Action Pad を押すと右回りに「録音」→「停止」→「開始位置に戻る」というように機能が割り当てられています。



### ● 録音を開始する

Action Pad を押し、2小節分のカウントを聞いてからギターを演奏します。ここでは4小節のリフを弾いてみました。



### ● 録音を停止する

演奏が終わったらもう一度 Action Pad を押し、録音を停止します。さらにもう一度 Action Pad を押し、曲の先頭に巻き戻されます。

## HINT !

別売りのフットスイッチ「FC5」を接続すれば、Action Pad の操作をフットスイッチで操作することができ、足元で録音や停止の操作ができます。両手のふさがるギタリストに便利です！



## ● 録音したトラックの試聴と調整

それでは、録音したトラックを試聴してみましょう。

### ● Distortion Guitar のトラックの「モニタリング」 「録音可能」 ボタンをクリックしてオフにします。



### ● トランスポートパネルにある「再生」 ボタンをクリックして再生します。



録音した演奏を聞いてみて、ギターサウンドを調整したい場合には、アンプシミュレーターのパラメーターにマウスを合わせ、AI KNOB を使って調整することができます。

CI2を使えばアンプシミュレーターの音作りから録音、録音した後の調整が直感的でしかも楽に行えます！



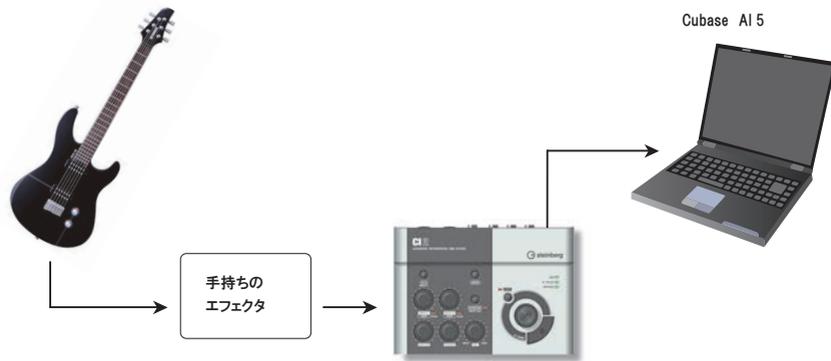
また、ボーカルを録音する場合には、CI2の2/Rの端子にマイクを接続し、Vocalsトラックに同様の手順で録音できます！

## コラム

### 手持ちのエフェクトを使って録音する

ここまでは Cubase AI 5 内蔵のアンプシミュレーターで音作りをして録音しましたが、普段使っているエフェクターをギターに接続し、音作りをして録音することも可能です。

接続は次のようになります。



この接続で注意するのは、演奏した音はエフェクターがかかった状態で録音され、そのエフェクターのパラメーターを後から調整することができないということです。しっかりと音作りを行ってから録音するようにしましょう。

録音したギターやボーカルに伴奏をつけるために、Cubase AI 5 には様々な機能が用意されていますので活用してみましょう。

### ドラムに LOOP ファイルを活用する

LOOP(ループ) ファイルという人間が実際に演奏したドラムパターンのファイルをトラックに読み込めば、簡単にドラムトラックを作成できます。

LOOP ファイルは、Cubase AI 5 の DVD ディスク内の「Cubase AI 5 for Windows (または for MacOS X)」→「Additional Content」→「Yamaha Content」→「Loops」フォルダに様々なスタイルのドラム LOOP が収録されています。

ファイルをプロジェクトにドラッグ&ドロップするだけで自動的にドラム用のトラックが作成され、あっという間にドラムトラックが完成します。



#### HINT !

LOOP ファイルは任意の場所にコピーしてから使った方が AI5 への読み込みが速くなります。

### ベースにソフトシンセサイザー HALion One を活用する

Cubase AI 5 には、ベースやピアノ、ストリングス、ブラス、ドラムなどの音を内蔵した「HALion One (ハリオンワン)」というソフトシンセサイザーが付属しています。

HALion をインストゥルメントトラックで起動し、ベースの音色を選択し、音の高さと長さ、強さを指定して演奏するデータを入力します。

#### HINT !

音色を選ぶ際には、AI KNOB を利用すれば素早く目的の音色を選択できます。

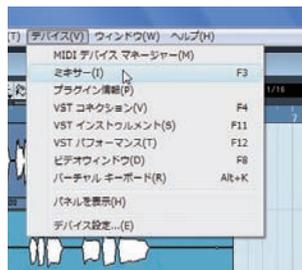


ギター、ボーカル、ドラム、ベースを入力しました。これから各トラックの調整を行い完成!となりますが、このままでは Cubase AI 5 のファイルとして完成しただけで、他の人に聞いてもらうためには一般的なファイルに変換しなければなりません。ここでは CD を作成するためのファイル形式「Wave(.wav) ファイル」に変換する手順を解説します。

## ●音量を調整する

各トラックの音量を調整してバランス良く聞こえるようにします。音量の調整にはミキサーを使います。

- 「デバイス」→「ミキサー」をクリックしてミキサーを表示します。



- 曲を再生しながら、音量を調節する「フェーダー」にマウスのカーソルを合わせ、AI KNOB を回して音量を調整します。



### HINT !

フェーダーの動きを曲の進行に合わせて記録（オートメーション）することも可能です。

## ●エフェクトをかけて曲を仕上げる

Wave ファイルに変換する前に、トラックにエフェクトをかけて音を仕上げましょう。ここではギターにリバーブをかけます。

- Distortion Guitarのトラックにある「e (チャンネル設定の編集)」ボタンをクリックします。



- 「インサート」欄でクリックし、「Reverb-Roomworks SE」を選択します。



- AI KNOB を押し、プリセット ブラウザーで AI KNOB を回しながらプリセットを選択します。ここでは「Bright Plate Reverb」を選択し、AI KNOB を押します。



- 各パラメーターにカーソルを合わせ、AI KNOB を回してリバーブ音を調整します。



その他のトラックにも同様の手順でエフェクトをかけて調整していきましょう。

### HINT ! Action Pad の項目を変更する

初期設定では、Action Pad の動作する項目は「録音」「停止」「開始位置に戻る」ですが、録音がすべて終了し、曲を再生しながら音の調整を行うような場合には「録音」ではなく「開始 (再生)」にしておく便利です。「録音」の右にある三角のマークをクリックするとメニューが表示されるので「開始」を選択します。



## Wave ファイルへの書き出し

音量の調整やエフェクトの処理が終了したら、Wave ファイルへ書き出します。

### ●書き出す範囲を指定する

今回は 4 小節の曲ですが、リバープなどの残響音が不自然に切れて書き出されないよう、曲の終わりから 1~2 小節の余裕を持たせます。トランスポートパネルで、曲の始まりの「L」は「1.1.1.0」、曲の終わりの「R」を「6.1.1.0」に設定します。



### ●「ファイル」→「書き出し」→「オーディオ ミックスダウン」をクリックします。



### ●「オーディオ ミックスダウン書き出し」の画面が開きます。

ここではオーディオ CD を作成するのを前提として、各種設定を行います。「ファイル名」はここでは「CI2 Session」、「パス」は「デスクトップ」、「ファイルフォーマット」は「Wave ファイル」にします。また「オーディオ エンジン出力」の項目ですが、「サンプリング レート」は「44.100kHz」、「ビット デプス」は「16Bit」に設定します。また「書き出し後にダイアログを閉じる」にチェックを入れておくと、書き出しが終わった後にこの画面が閉じて終了が確認できます。

設定が済んだら「書き出し」をクリックします。



書き出しが終了すると、デスクトップには図のようなアイコンが表示されます。



このファイルをオーディオ CD ライティングソフトに読み込めばオーディオ CD を作成することができます。また Windows Media Player や Quick Time などでも再生することもできます。また変換ソフトを利用すれば MP3 ファイルに変換することもできます。

CI2 と Cubase AI 5 の組み合わせで、ギターアンプらしい音でギターの録音、さらに歌の録音や伴奏作り、さらにオーディオ CD 作成の準備までが一括して行えます。ぜひ活用して音楽制作ライフにお役立てください!

## コラム

### CI2 をモバイルレコーディングやコントローラーとして活用する

#### CI2 を使ってレンタルスタジオでボーカル録り

自宅では別のオーディオインターフェースを使用しているが、ボーカルだけはレンタルスタジオで録音したいという場合、CI2 の軽量 / コンパクト / 電源不必要というメリットを活かせば、手軽に高音質の録音が行えます。コンデンサーマイクに必要なファンタム電源も装備しています。



#### CI2 をコントローラーとして使用する

すでに Cubase シリーズと別のオーディオインターフェースを使用しているという方でも、再生 / 録音 / 巻き戻し、パラメーターの変更や調整を CI2 の AI KNOB や Action Pad を行えば作業効率が飛躍的にアップします。



# SPECIAL INTERVIEW

スペシャルインタビュー



プロフェッショナル  
江夏正晃  
宮川暢彦  
が語る

## コントローラーの 魅力!!

■江夏さんは DM2000 を Nuendo/Cubase 用の DAW コントローラーとしてご利用いただくなど、DAW コントローラーに対する造詣が深いことは周知の通りですが、そもそも一連の制作フローの中で DAW コントローラーを使用するメリットをお聞かせいただけますか？

江夏：いわゆる DAW ソフトウェアをコントロールする手段は、意識していなくても、マウスやキーボードに依存しているというのが現状です。例えば私のように 20 年来音楽制作を行っている者にとっては、シンセサイザーのパラメーターをハードウェアのツマミやノブを用いて行うことは当然のことだったのですが、近年では色々なものがバリエーション化されることで「不便さ」が生じています。その問題を解消する「答え」がコントローラーだったんです。パソコンの進化に伴って、どんどん出来る事が拡がり、コントロールの対象が DAW の下の階層に入ってしまう、音楽が画一的になる傾向があります。

僕は音楽というものは動的にコントロールすべきだと思うんですね。DM2000 や CC121 を用いれば、画面の奥深くに隠れてしまったものや、マウスやキーボードでは操作しにくいパラメーターを簡単にコントロールできるんです。特に CC121 のマウスオーバーしたパラメーターをコントロールできる「AI ノブ」の考えには非常に共感できます。コントローラーを用いることによって、音楽の面白さ、カッコよさが前面に出せるんです。

■江夏さんのワークフローは今や DAW コントローラーなしでは成立しないと。

江夏：はい、その通りです。コントローラーなしで制作するのは辛いです。動的にパラメーターをコントロールするためには、DM2000 や CC121 が絶対に必要です。僕のワークフローで「コントローラーがない」ということは基本的には考えられません。オーディオインターフェイスに次いで重要なものと言えます。

左：江夏正晃 (Masaki Enatsu)  
DJ ebee#1 として今までに 4 枚のオリジナルアルバムをリリースする一方、株式会社マリモレコーズの代表として、楽曲のプロデュースをはじめアーティストプロデュース、アルバム制作、CM 他、多方面の音楽制作を行う。作曲、レコーディング、ミックス、マスタリングまで、一貫したプロデュースを得意とする。関西学院大学の非常勤講師も勤める。



2009 年 6 月にニューアルバム「JAT BLACK」をリリース。

右：宮川暢彦 (Nobuhiko Miyagawa)

1996 年より DJ HASEBE ほか、HipHop・R&B の作品にギタリストとして多数参加。一方でハウスを中心に DJ/トラックメイカーとしても活動し、DJ CHIKU との SteelStreet では Allison Limerick など、海外アーティストのリミックスも手がける。従来のギタリスト、トラックメイカーという枠にとどまらず、CM・映像作品への楽曲提供、エンジニアリング、MA、機材レビューに至るまで、そのフィールドを拡げている。



■発売直後からおよそ 1 年間、CC121 をご利用いただけていますが、使用感はいかがでしょう？

江夏：Steinberg 社は、この CC121 を音楽制作用途に開発されたと思うんですが、実はライブパフォーマンスにも凄く使えるんです。5 月の SteinbergDay や 8 月の WIRE09 といったイベントのステージでも使わせていただきました。最近、音楽の表現方法として、楽器を演奏することだけでなく、コンピュータを操作する、あるいは何らかのツマミをコントロールするといった新しい試みも増えてきました。そういった使い方として CC121 は面白いと思います。もちろん制作のツールとしても使っているんですが、色々な場面で活躍してくれています。

■宮川さんにも CC121 の使用感をお伺いさせてください。

宮川：使っていて思うのが、ツマミやフェーダーの質感が非常にしっかりしていること。モーターフェーダーのストロークも DM2000 と同じで、エントリーモデルでは実現できないプロユースのスペックを持っていると思います。話は戻りますが、マウスでは同時に 1 つのパラメーターしか触れないのですが、フィジカルコントローラーを用いることによって、同時に複数のパラメーターを触れるのが大きいですね。実は、CC121 を触るまではあまり単体フィジカルコントローラーは使っていなかったのですが、それを身近にしてくれたのが CC121 なんです。AI ノブが 4 つ付いてたりすると最高ですね (笑)。

江夏：直感的に何かをコントロールしたい場合に AI ノブが即戦力です。AI ノブが 4 つだけのコントローラーがあれば僕も欲しいです (笑)。DJ ユースに最高です。

■今回、新製品 C12 をお試しいただきましたが、第一印象はいかがでしょう？

江夏：CC121 の AI ノブと同じかな、と思っていましたが違いますね。プッシュできることがこんなに違う



とは思いませんでした。CC121 ユーザーとしては悔しいですね（笑）。アクションパッドも面白い発想です。自分のワークフローに取り込んでしまえば手放せません。しかもフットスイッチに対応している。新しいタイプのコントローラーという印象を受けました。

また、デザインも Steinberg らしいですね。前面のパンチングメタルはクールな印象を受けます。オシャレなスタジオにも持ってこいですね。Cubase AI 5 のプロジェクトアシスタントはユーザーに優しい機能だと思いました。

■その Cubase AI 5 に新搭載された VST エフェクト「AmpSimulator」は宮川さんにうってつけだと思いますが、いかがでしょう？

宮川：使いたくなりますね（笑）。繋いですぐ使えるのが大きいです。思いついたことがすぐに実行できる。CI2 本体には MIX コントロールも付いていて Dry/Wet の調整ができるので、レテンシーの気になるギタリストにとっても助かりますね。さすがプレイヤーの事をよく考えて作られているなと思いました（笑）。

■最後に、この CI2 はどのような方々にオススメできますか？



江夏：例えば、Cubase は持っているけど、まだオーディオインターフェイスを持っていない方、もしくは音楽制作用途ではなく MA やサウンドデザインをされる方、フィールドレコーディングなどのモバイル用途の方が挙げられますね。また、コンパクトサイズならではのモバイルという意味では、バンド、DJ ユースもあります。僕も DJ ですが、オーディオインターフェイスとコントローラーを別々に持っていなくてもこれ 1 つで済む訳ですからね。新しい Cubase AI 5 も興味深いですよ。ヤマハと Steinberg との共同開発のこの CI2 には色々な可能性が秘めていると思いますね。

■ありがとうございました。

## CC121

ADVANCED INTEGRATION CONTROLLER



- ・ポイント&コントロール対応の AI ノブ
- ・100mm タッチセンシティブモーターフェーダー
- ・各種トランスポートコントロール
- ・Cubase のトラック EQ セクションを完全にハードウェア化
- ・V1.5 アップデートによるワークフローの向上

アドバンスド・インテグレーション・コントローラー『CC121』は、操作性と編集スピードの速さにおいて、高い評価を受けている Steinberg 社製 DAW ソフトウェア『Cubase』の特徴をさらに引き上げるために開発された専用コントローラーです。操作頻度の高いチャンネル・コントロール機能を『Cubase』の GUI と同じように配置し、ハードウェア化。さらに新開発の『AI ノブ』を搭載することによって、導入した瞬間から、スピーディかつ洗練された操作を実現します。

## CI2 にバンドルの Cubase AI 5 について

Cubase AI 5 は、Steinberg と Yamaha のハードウェア用に設計された、Steinberg ミュージックプロダクションシステムの特別バージョンです。シリーズ最上位グレードの Cubase 5 と同じ技術に基づき、オーディオレコーディング、MIDI シーケンス、編集、ミキシングのための充実した機能を備えています。Yamaha との共同開発による統合機能 "AI Functions" によってハードウェアとの抜群の連携を誇る Cubase AI 5 は、スタジオクオリティのレコーディングシステムを簡単に実現します。



### ▶ 主な特徴

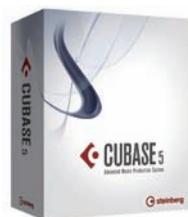
- ・Cubase 5 譲りの高音質 VST3 オーディオエンジン
- ・最大 48 オーディオトラック、64 MIDI トラック
- ・Yamaha シンセサイザー MOTIF の波形を移植したサンプルプレーヤー "HALionONE" を搭載
- ・MOTIF XS シリーズ、KX シリーズ、n シリーズ等、Yamaha ハードウェアとのプラグ & プレイによる VST/MIDI 簡易セットアップ
- ・Steinberg ハードウェア MR816CSX、MR816X、CC121、CI2 との完全な統合機能
- ・新しい VST3 プラグイン 22 種類を含む 31 種類の VST エフェクトプラグイン
- ・MIDI コントローラーとオートメーションの扱いを一元化
- ・クロスプラットフォーム：Windows & Mac OS X (ユニバーサルバイナリー)

Steinberg の 25 年にわたる開発経験から生まれた最先端の DAW (デジタルオーディオワークステーション) ソフトウェアが Cubase 5 です。最高のサウンドクオリティ、直感的な操作性、そして作曲、レコーディング、編集、ミキシングのための豊富なツールを高度に統合しています。Cubase 5 シリーズには用途や目的に合わせて選択できる 3 つのグレードが用意されています。CI2 はこれら 3 つのグレード全ての Cubase に対応しています。

## Cubase 5

Cubase 5 は、オーディオ/MIDI ツールを使用した従来の作曲方法に加えて、現代のトラックメイキングにおいて即戦力になる機能を中心に搭載しました。

- ・世界中のスタジオで使用されているミュージックプロダクションシステム
- ・32bit 浮動小数点演算オーディオエンジン搭載、5.1 サラウンド対応
- ・8 種の VSTi と 56 種の VST エフェクトプラグイン搭載
- ・オーディオトラックを MIDI のように自在に操る VariAudio
- ・ビート制作の革命的ツール LoopMash
- ・作曲家のためのアーティキュレーション表現 VST Expression
- ・プロフェッショナルスコア機能 (楽譜作成&印刷)
- ・DAW 間の共有をスムーズにするマルチチャンネルエクスポート



Cubase 5/R 通常版  
Cubase 5/E アカデミック版  
Cubase 5/UG アップグレード版



Cubase 5/R 通常版  
Cubase 5/E アカデミック版  
Cubase 5/UG アップグレード版

## Cubase Studio 5

Cubase Studio 5 は、最上位グレードの Cubase 5 と同じコアテクノロジーを基に合理化され、ホームスタジオ向けにカスタマイズされたミッドレンジグレードの DAW ソフトウェアです。現代のトラックメイキングにおいて即戦力になる機能を厳選して搭載。プロクオリティのレコーディング、編集、ミキシング機能をリーズナブルに提供するパッケージです。



Cubase 5/R 通常版  
Cubase 5/E アカデミック版

## Cubase Essential 5

Cubase Essential 5 は、Cubase 5 シリーズのエントリーグレードです。フラッグシップグレードの Cubase 5 と同様の高音質 VST3 オーディオエンジンをベースに音楽制作用途に必要な不可欠な機能を絞り込んで搭載することでハイコストパフォーマンスを実現しました。

\* アップグレード版 (UG 版) は、Cubase AI 5、Cubase AI 4、Cubase LE 4 をご利用のユーザー様を対象とした商品です (2010 年 4 月現在)。

	Cubase 5	Cubase Studio 5	Cubase Essential 5	Cubase AI5
● 製品情報				
対応 OS	Windows XP, Vista, 7* / Mac OS X 10.5.5, 10.6* (ハイブリッド)			
Windows Vista/7* 64bit 対応	○	○	×	×
● MIDI 関連機能				
最大 MIDI トラック数	無制限	無制限	無制限	64
譜面作成・印刷機能	○ (アドバンスド作譜機能)	○ (アドバンスド作譜機能)	○	○
Beat Designer (ステップシーケンサー)	○	○	○	×
VST Expression (アーティキュレーション機能)	○	○	×	×
● オーディオ関連機能				
最大オーディオトラック数	無制限	無制限	64	48
VariAudio (ピッチ修正ツール)	○	×	×	×
トータルエクスポート (複数チャンネル同時書き出し)	○	○	×	×
フリーズ機能	○	○	○	×
● VST プラグインエフェクト				
付属オーディオエフェクト プラグイン数	56	38	33	31
REVerence (サンプリングリバーブ)	○	×	×	×
Maximizer (マキシマイザー)	○	○	×	×
Pitch Correct (ボーカル用エフェクト)	○	○	○	×
● VST インストゥルメント (ソフトウェア・シンセサイザー)				
インストゥルメント・トラック	無制限	無制限	無制限	16
付属 VST インストゥルメント数	8	3	2	1
VSTi スロット	64	32	16	2
HALion One 音色数	700 音色以上	400 音色以上	300 音色以上	135 音色以上
Loop Mash (ビート生成ツール)	○	×	×	×
Groove Agent One (ドラムサンプラー)	○	○	×	×
Prologue (アナログモデリングシンセ)	○	○	○	×

\* Snow Leopard、Windows 7 対応アップデートは Steinberg ウェブサイトより提供  
\* 赤字は Cubase 5 シリーズの新機能  
2010 年 4 月現在

## 仕様 (外観)

### ▶ オーディオインターフェース セクション

Hi-Z 切り替えボタン。  
入力 1 にエレキギターやベースを接続する場合に使用します。

入力 1 と 2 は、それぞれ専用のゲインノブ、ピーク LED を装備。

L/R 出力用マスター ボリューム ノブ

フォーン出力レベル調整用  
ボリューム ノブ



入力 1 と入力 2 を  
モノラル信号にミックス  
するモノ ボタン

入力 1、入力 2 用  
ファンタム電源ボタン

DAW の再生音と入力  
信号との比率を調整する  
ミックス ノブ

### ▶ コントローラー セクション

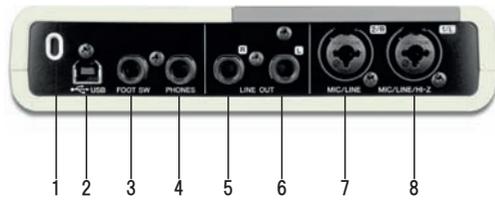


ロック ボタン

AI ノブ。Cubase のコントロール要素をマウスでポイントすると、このノブを回して、そのパラメーターを調節できます。ノブを押して、選択を確定することなどもできます。

アクション パッド

### ▶ リア パネル



1. ケンジントン ロック装着用スロット
2. USB 端子
3. フットスイッチ端子
4. ヘッドフォン出力
5. ライン出力 R
6. ライン出力 L
7. マイク / ライン入力  
2/R XLR / フォーン コンボ端子
8. マイク / ライン入力  
1/L XLR / フォーン コンボ端子 (Hi-Z 切り替え可)

## 仕様

入力端子	MIC/LINE/HI-Z/L x1	コンボ端子 (XLR、1/4 インチ TS または TRS)
	MIC/LINE/R x1	コンボ端子 (XLR、1/4 インチ TS または TRS)
出力端子	LINE OUT x2 (L/R)	フォーン端子 (1/4 インチ TS または TRS)
	PHONES x1	フォーン端子
その他の端子	FOOT SW x1	フォーン端子
	USB x1	USB1.1、44.1/48kHz、16/24bit
操作子	HI-Z INPUT	On: エレキギターなど接続時 Off: シンセサイザーなど接続時
	MONO	On: 入力 1 と 2 をモノラル CH として使用 Off: 入力 1 と 2 をステレオ CH として使用
	INPUT 1/2 GAIN コントロール x2	入力信号のゲインを調整
	PHANTOM INPUT 1&2	入力 1 と 2 に 48V ファンタム電源を供給 (XLR タイプのみ)
	MASTER	LINE OUT (L/R) に出力される信号レベルを調整
	PHONES	PHONES に出力される信号レベルを調整
	MIX (INPUT-DAW)	INPUT と DAW の音量バランスを調整
	LOCK	AI KNOB で操作するパラメーターを固定、CANCEL
	AI KNOB	回す: パラメーターをコントロール、リストをスクロール 押す: ブラウズ機能、決定など
	ACTION PAD	インタラクティブレコーディング機能、TAB
電源供給	USB バスパワー	
外形寸法	190 (W) x 45.4 (H) x 134.5 (D) mm	
質量	720 g	
付属品	Cubase AI 5 DVD-ROM	
	TOOLS for CI2 CD-ROM	
	USB ケーブル	
	オペレーションマニュアル	

## 動作環境

	Macintosh	Windows
対応 OS	OS X 10.5.5 (Leopard), 10.6 (Snow Leopard)*	Windows XP Professional / Home Edition, Windows Vista, Windows 7*
CPU	PowerPC G5 (Intel Core Duo 以上を推奨)	Pentium/Athlon 2GHz 以上 (Dual Core プロセッサ推奨)
RAM	1GB 以上	
HDD	4GB 以上の空き容量	
ディスプレイ	1280 x 800 ピクセル以上 - フルカラー DVD-ROM ドライブ	
USB 端子	CI2 接続用	
インターネット接続環境	ライセンスアクティベーション (付属 Cubase AI 5)、ユーザー登録等	

\* Snow Leopard、Windows 7 対応アップデートは Steinberg ウェブサイトより提供

### ▶ 別売オプション (ヤマハ製品)



フットスイッチ FC5  
メーカー希望小売価格  
¥1,575 (税込)



マイクスタンドアダプター  
BMS-10A  
メーカー希望小売価格  
¥2,625 (税込)



感動を・ともに・創る

ヤマハ株式会社 EKB・LM 営業部 営業推進室

〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11 TEL 03-5488-5430

